

- 問1 3世紀頃の日本（倭）の様子が詳しく記されている中国の歴史書『三国志』の一部で、邪馬台国の女王である卑弥呼が魏の皇帝から「親魏倭王」という称号を授かったことなどが記述されている資料の名前として正しいものを選びなさい。（2017年 富山県公立入試 類似）
1. 日本書紀

2. 後漢書東夷伝

3. 漢書地理志

4. 魏志倭人伝
- 問2 福岡県の志賀島で発見された、金で作られた「漢委奴国王」の印（金印）が示している歴史的事実として適切なものを選んでください。（2021年 神奈川県公立入試 類似）
1. 日本が中国の進んだ制度を取り入れるために、多くの留学生を伴う遣唐使を派遣した。

2. 邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から親魏倭王の称号と銅鏡を授けられた。

3. 倭の奴国の王が中国の漢（後漢）へ使いを送り、皇帝から王の地位を認められた。

4. 聖徳太子が小野妹子を隋に派遣し、中国と対等な外交関係を築こうとした。
- 問3 3世紀の弥生時代、邪馬台国の女王である卑弥呼が行った外交について述べた文として、最も適切なものを選択してください。（2015年 佐賀県公立入試 類似）
1. 中国の漢（後漢）に使いを送り、光武帝から「漢委奴国王」の金印を授かった。

2. 中国の魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かった。

3. 中国の宋（南朝）に使いを送り、朝鮮半島南部での軍事的な指揮権を認められた。

4. 中国の隋に小野妹子を遣隋使として派遣し、対等な外交関係を求めた。
- 問4 弥生時代の祭祀で使われた青銅器のうち、釣鐘のような独特の形状をした道具について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2026年 滋賀県公立入試 類似）
1. 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。

2. 土でつくられ、古墳の周囲に並べることで死者の霊を慰める役割を果たした。

3. 非常に鋭い刃を持ち、敵と戦うための武器や木材を加工する工具として使われた。

4. 仏教の伝来とともに寺院に設置され、人々に時刻を知らせるために打ち鳴らされた。
- 問5 弥生時代の社会の変化について述べた文として、当時の集落のあり方や道具の特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2024年 沖縄県公立入試 類似）
1. 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。

2. 縄目の文様がある厚手で黒褐色の土器を使用し、主に狩りや採集を行って生活した。

3. 竪穴住居が並ぶ大規模な集落が形成されたが、外敵を防ぐための堀などは作られなかった。

4. 仏教の伝来とともに巨大な前方後円墳が造られ、集落の形が大きく変化した。
- 問6 3世紀頃の日本の様子について記された歴史書に関連して、女王卑弥呼が中国の王朝である魏に使者を送った際、魏の皇帝から授けられた称号と金印の内容として正しいものを次の中から選びなさい。（2019年 茨城県公立入試 類似）
1. 「征夷大將軍」の宣旨

2. 「漢委奴国王」の金印

3. 「日本国王」の金印と勘合

4. 「親魏倭王」の称号と金印
- 問7 弥生時代に使用された道具とその背景について述べた文として、正しいものはどれですか。（2024年 山口県公立入試 類似）
1. 稲作が始まった当初は木製の農具が中心であったが、次第に大陸から伝わった鉄器なども使われるようになった。

2. 牛や馬を農作業に利用する牛馬耕が導入されたことで、大規模な水田開発が全国で一斉に進んだ。

3. 金属器のうち、青銅器は主に木材を加工するための工具として、鉄器は祭祀用の宝物として使い分けられた。

4. 収穫の効率を上げるために、鉄製の鎌を用いて稲の根元から刈り取る方式がこの時代に確立した。
- 問8 弥生時代の遺跡から発掘される人骨に見られる特徴のうち、当時の社会において集落間の対立が激化したことを示す根拠として正しいものはどれですか。（2022年 沖縄県公立入試 類似）
1. 骨の成分分析から、家畜の肉を主食としていたことが判明し、獲物の奪い合いが推測されること

2. 人骨が、身に合った大きさや形の異なる前方後円墳などの古墳から発見されること

3. 骨に武器による殺傷跡があったり、本来あるはずの頭部がない状態で発見されたりすること

4. 人骨の周囲に、祭祀に用いられたと考えられる銅鐸や銅剣が大量に並べられていること
- 問9 日本列島で稲作が広まり、人々が竪穴住居に住んで定住生活を行っていた時代について説明した記述があります。その記述には、大陸から伝わった銅鐸や銅鏡などの青銅器が祭りの道具として用いられていたことや、当時の中国の歴史書において日本が「100余りの国」に分かれていたと記されていることが示されています。この時代の名称として正しいものを選びなさい。（2022年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 奈良時代

2. 古墳時代

3. 弥生時代

4. 縄文時代
- 問10 弥生時代の代表的な遺跡である佐賀県の吉野ヶ里遺跡では、集落の周囲に深い壕（ほり）や木製の柵が巡らされ、高床倉庫や物見櫓などが計画的に配置されています。このような、外敵や野生動物の侵入を防ぐために周囲を囲んだ集落の形態を何と呼びますか。（2025年 群馬県公立入試 類似）
1. 寝殿造

2. 門前町

3. 国府

4. 環濠集落
- 問11 佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表される弥生時代の文化や社会状況について述べた文として、背景や当時の国際関係を含めて説明したものとして正しいものを選択してください。（2015年 佐賀県公立入試 類似）
1. 百済から仏教が伝来し、聖徳太子が大陸の進んだ制度を取り入れるために十七条の憲法を制定した。

2. 有柄細形銅剣などの青銅器が大陸から伝わり、女王卑弥呼が魏へ使者を送るなど大陸の王朝との交流を通じて自らの権威を高めた。

3. 稲作が普及して定住が進んだが、大陸との交流は途絶えており、日本独自の国風文化が形成された。

4. 巨大な前方後円墳が各地に築かれ、ヤマト政権が近畿地方を中心に統一国家としての基盤を固めた。
- 問12 弥生時代に造られた、掘立柱によって床を高い位置に設けた建築物の特徴と目的について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2021年 佐賀県公立入試 類似）
1. 貴族が政治や生活を行うための住居として、池を中心とした広い庭園に面して複数の建物が廊下で結ばれた。

2. 収穫した稲を貯蔵するために造られ、湿気を防ぎ、ネズミなどの害獣の侵入を防ぐ工夫が施された。

3. 地面を円形や方形に掘り下げ、その上に屋根をかけた人々の住居として、防寒性を高める工夫がなされた。

4. 大陸から伝わった仏教の儀式を行うための施設として、屋根に瓦をふき、床に石を敷き詰めて造られた。
- 問13 3世紀の日本の様子が記された中国の史書『三国志』の「魏志」倭人伝において、約30の国々をまとめ、中国の魏に使いを送ったとされる邪馬台国の女王は誰ですか。（2025年 長野県公立入試 類似）
1. 卑弥呼

2. 推古天皇

3. 北条政子

4. 持統天皇

答え合わせ・解説

問1	答え 4 魏志倭人伝	3世紀の日本（倭）について詳しく記述されているこの資料は、中国の歴史書『三国志』の中に含まれています。邪馬台国の女王である卑弥呼が魏に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かった事実が記されており、当時の日本の政治や社会状況を知るための極めて重要な史料です。なお、選択肢にある『日本書紀』は8世紀に日本で作成された歴史書であり、混同しないよう注意が必要です。
問2	答え 3 倭の奴国の王が中国の漢（後漢）へ使いを送り、皇帝から王の地位を認められた。	中国の歴史書『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国の王が光武帝に使いを送り、印綬を授かったという記録があります。志賀島で見つかった金印はこの記述を裏付けるものであり、当時の日本の小国の王が、中国の皇帝に貢ぎ物を送ることで、自分の支配権を公認してもらおうとした国際関係を示しています。
問3	答え 2 中国の魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かった。	3世紀、多くの小国が争っていた日本（倭）において、邪馬台国の卑弥呼は中国の魏に使いを送りました。このことは中国の歴史書『魏志』倭人伝に記されています。卑弥呼は魏の皇帝から「親魏倭王」の称号とともに、金印や多数の銅鏡（三角縁神獣鏡など）を授かることで、その権威を背景に国内の統治を安定させようとした。他の選択肢にある漢との外交は1世紀（奴国の王）、宋との外交は5世紀（倭の五王）、隋との外交は7世紀（聖徳太子ら）の出来事であり、時代が異なります。
問4	答え 1 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。	釣鐘型の青銅器は「銅鐸（どうたく）」と呼ばれます。その表面には、鹿を狩る様子や稲作の風景、高床倉庫などが描かれていることがあり、当時の生活を知るための貴重な資料となっています。古墳時代に作られた埴輪や、実用的な武器としての鉄器とは役割が明確に異なります。
問5	答え 1 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。	弥生時代は、稲作の普及に伴い金属器（鉄器・青銅器）や、縄文土器に比べて薄くて硬い弥生土器が使われ始めました。社会構造の変化により、争いから身を守るための環濠集落が築かれたのがこの時期の大きな特徴です。縄目の文様がある土器や、防御施設のない大規模集落（三内丸山遺跡など）は主に縄文時代の特徴です。
問6	答え 4 「親魏倭王」の称号と金印	3世紀に邪馬台国を治めていた女王の卑弥呼は、中国の三国時代における王朝の一つである魏に使者を送りました。これに対し魏の皇帝は、卑弥呼を倭の王として認め、「親魏倭王」の称号と金印、さらに多数の銅鏡などを贈りました。1世紀（西暦57年）に奴国の王が後漢の皇帝から授かった「漢委奴国王」の金印と混同しないよう注意が必要です。
問7	答え 1 稲作が始まった当初は木製の農具が中心であったが、次第に大陸から伝わった鉄器なども使われるようになった。	弥生時代には大陸から鉄器と青銅器がほぼ同時に伝わりました。鉄器は主に工具や農具などの実用品として、青銅器は銅鐸や銅鏡のように祭祀・儀式用の宝物として用いられました。稲の収穫には主に石包丁が使われ、穂の部分のみを摘み取る「穂首刈り」が行われていました。牛馬耕が普及するのは平安時代以降のことです。
問8	答え 3 骨に武器による殺傷跡があったり、本来あるはずの頭部がない状態で発見されたりすること	弥生時代の遺跡では、戦いによって傷ついた人骨や、鋭利な道具で切断された跡がある人骨がしばしば発見されます。これは、土地や水をめぐる「争い」が社会的に定着したことを示す考古学的な証拠です。銅鐸は祭りや儀式に用いられた道具であり、争いの直接的な証拠ではありません。また、古墳に埋葬されるようになるのは後の古墳時代の特徴であり、弥生時代の争いの証拠とは区別する必要があります。
問9	答え 3 弥生時代	紀元前数世紀から紀元後3世紀頃にかけての日本列島では、大陸から伝わった水稻耕作（稲作）が普及し、食料生産が安定したことで社会の仕組みが大きく変化しました。この時代、鉄器が武器や工具として使われる一方で、銅鐸などの青銅器は豊作を祈るための祭祀具として重宝されました。また、中国の歴史書『漢書』地理志には、当時の日本（倭）が100余りの小国に分かれ、一部の国が楽浪郡を通じて中国（漢）に使者を送っていたことが記されています。
問10	答え 4 環濠集落	弥生時代に稲作が普及すると、土地や水をめぐって集落同士の争いが起こるようになりました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表されるこの形態は、集落の周りに壕（溝）を掘ることで、敵の侵入を物理的に防ぐ防衛機能を持っています。一方、選択肢にある国府は飛鳥時代以降の地方行政の中心地、寝殿造は平安時代の貴族の住宅様式を指します。
問11	答え 2 有柄細形銅剣などの青銅器が大陸から伝わり、女王卑弥呼が魏へ使者を送るなど大陸の王朝との交流を通じて自らの権威を高めた。	吉野ヶ里遺跡は、大規模な環濠集落や有柄細形銅剣などの出土品から、弥生時代の社会構造や大陸とのつながりを示す重要な遺跡です。この時代、稲作の普及により余剰生産物が生まれ、貧富の差や土地を巡る争いが発生しました。その中で誕生した邪馬台国の卑弥呼は、中国の魏と外交を行うことで、大陸の進んだ文化や宝物、そして皇帝からの公認という「権威」を獲得し、国内の小国をまとめようとした。古墳の造営や仏教の伝来は後の時代の出来事です。
問12	答え 2 収穫した稲を貯蔵するために造られ、湿気を防ぎ、ネズミなどの害獣の侵入を防ぐ工夫が施された。	弥生時代に稲作が普及すると、収穫した稲を長期間保存する必要が生じました。高床（式）倉庫は、地面からの湿気が直接伝わって米が腐敗するのを防ぐために床を高く設計しています。また、梯子（はしご）を使って出入りする構造になっており、柱の上部には「ネズミ返し」と呼ばれる板を取り付けることで、貯蔵した食料を害獣から守る工夫がなされていました。
問13	答え 1 卑弥呼	3世紀の日本（倭）では、多くの小国が争っていましたが、邪馬台国の女王である卑弥呼が呪術的な力を背景にこれらをまとめ上げました。彼女は239年に中国の魏へ使者を送り、外交関係を築いたことが『魏志倭人伝』に記録されています。